

市民の暮らしと安全を守る対応を

党市議団が申

し入れ

記録的大雪 「災害」との認識で対応を

日本共産党長野市議団は17日、14日からの記録的な大雪ともなう市民への影響が心配されるなか、除雪などに奔走する市職員の対応を労いながら、たんなる大雪でなく「雪害」と認識して市民生活の回復に対応するよう長野市災害対策本部が設置されなかった。長野市防災計画によれば、雪害応急対策計画で40センチを大幅う市に申し入れ（第一次分）をしました。黒田副市長が対応しました。内容は下記の5点です。

1. 今週再び大雪が予報されているが、災害対策本部を早急に設置すべきである。
2. 支所の対応が出来なかった地域が圧倒的である。緊急時に対応できる支所の体制の構築を求める。
3. 農業・住宅はじめ早急に市内全域のすべての被害状況を把握し、対策を講ずること。
4. バス路線、幹線道路の除雪については本日朝までにかなり対応されていたが、歩道、生活道路の確保についてはきわめて不十分である。病院周辺と子どもたちの通学路の安全確保については全庁挙げて取り組むよう強く要望する。またバス停、横断歩道、公共交通の確保についても対応すること。
5. 一人暮らし高齢者、高齢者世帯、障害者など災害弱者の生活状況を把握し、除雪、暖房の確保をはじめ必要な支援を住民自治協議会、民生委員、ケアマネージャーなどと協力して行うこと。
6. 大雪が週末にかかったこともあるが、本来なら昨年までに庁内駐車場、周辺道路の除雪については行っておくべきではなかったのか。月曜日の朝庁舎周辺が混乱することのないよう対応すべきであったはずである。今後このようことのないよう改善を求める。

日米共同訓練

3月9日の米海兵隊「史跡研修」の中止を求め

よ

25日（火）から3月8日（土）まで、新潟県関山と群馬県相馬原の演習場を使っておこなわれる日米共同訓練について、北関東防衛局陸幕広報室説明資料では、相馬原から関山への移動コースは、陸路・空路を含め長野県内を通過するのかもしれないのか、3月9日（日）に予定される「史跡研修」の詳細も明らかにされていません。

長野市議団は13日、「史跡研修」の中止を求めることなどを市に申し入れました。

申し入れでは、1997年11月13日（木）に実施された日米共同訓練のさい、訓練後の「史跡研修」で、米海兵隊約400人が私服で大型バス10数台に乗り、長野市のビックハット、真田宝物館、川中島古戦場を見学、午後は善光寺とその周辺を闊歩したことを指摘。長野市には公式には何の連絡もなく、市民や観光客が、海兵隊が一般市民の中に入り込んで歩く姿に遭遇して「ああ、軍隊なんだ」と不安な気持ちになり、「夜になったら心配

との声も聞かれたこと、ビックハットの職員も最初は「外人が来る」とだけ連絡があり、直前になって「米海兵隊だ」と知らされたこと、当時の様子を紹介しました。

そのうえで、今回も同様の「史跡研修」が想定されているとして、「日米安保体制下において、秘密保護法強行、集団的自衛権容認の方向につながる日米共同訓練について反対」とするとともに、「1. 訓練内容の詳細を明らかにするよう県・国に求めること、2. 長野県内の道路や上空の通過に反対すること、3. 長野市内の『史跡研修』を中止するよう求めること」について、緊急に対応するよう求めました。

